

登山月報



「よりベストをめざして」— 日本選手権リード競技大会 2017 —	2
積雪期レスキュー講習会（東部地区）を開催	3
平成28年度ジュニア・普及情報交換会報告	4
第101回 Mountain World	5
「山の日」制定記念—ふるさとの山を登ろう—	6
ネパール大地震第2次救援（復興）	7
平成28年度第4回理事会報告	10
平成29年度主な事業計画	11
平成29年度 収支予算	12
法人名称の変更について（お知らせ）	13
JMA、寄贈図書、編集後記	13

「よりベストをめざして」

— 日本選手権リード競技大会2017 —

3月4日(予選)、3月5日(準決勝、決勝)に加須市民体育館にて開催された、スポーツクライミング日本選手権リード競技大会2017(以下、J L C S 2017)は、世界で戦うための登竜門として新たなスタートを切った。



決勝ルート 赤：女子 青：男子



女子優勝：野口啓代



男子優勝：中野稔

競技のルートに関して海外と日本の内容が違うという意見があり、2020年のオリンピックに向けて世界レベルのルートに対応できるよう海外(スロベニア)から

2名のセッターを招聘した。

決勝のルート(写真参照)は、3つの壁を横断するよう設定された。このような場合、今まで持久的要素が強くなる傾向があったが、ボルダーの課題をいくつか繋げたようなルートで、常に高いパフォーマンス(ムーブの解決)が要求された。そのためか、女子では準決勝、決勝ともに完登はできなかった。野口、大田、森が同一高度で並びカウントバックで野口の6度目の優勝が決まった。

男子は、出だしから難しいルートに感じた。中盤までに落ちる選手が続出。各課題を確実に丁寧に処理していった中野が優勝。制限時間をフルに使って高度を獲得した。ベテランの経験と執念を感じた登りであった。今回から選考大会が一本化となりJ L C Sの重みが増した。そしてB J C同様のメディアの反響もあり、選手、スタッフともにレベルアップと集中が試された大会でもあった。おかげさまで大会は成功裏に終わることができたと感じております。選手、スタッフ、加須市、スポンサー、関係方々に改めてお礼申し上げます。

(実行委員長 村岡正己)

男子成績	優勝	中野 稔	(広島県)
	2位	樫崎 智亜	(栃木県)
	3位	波田 悠貴	(埼玉県)
	4位	緒方 良行	(福岡県)
	5位	沼尻 拓磨	(茨城県)
	6位	是永 敬一郎	(埼玉県)
女子成績	優勝	野口 啓代	(茨城県)
	2位	大田 理姿	(山口県)
	3位	森 秋彩	(茨城県)
	4位	伊藤 ふたば	(岩手県)
	5位	田嶋 あいか	(三重県)
	6位	小林 由佳	(茨城県)



積雪期レスキュー講習会(東部地区)を開催

平成28年度積雪期レスキュー講習会が1月27日(金)～29日(日)に谷川岳の土合山の家周辺で行われた。この講習会はtotoの助成を受けて開催されたものでクラス1、クラス2、クラス3の3コースの講習を行い、42名が受講した。今年は雪も例年よりやや少ないくらいで講習には十分であった。天気もままずで若い受講者や女性が多く、活気のある講習会となった。

全員で雪崩現象(雪崩について)を学んだ後、クラス別に行動した。

クラス1は日本雪崩ネットワークのセーフティークャンプのカリキュラムに従い、雪崩についての学習と対応を中心にJANの出川講師と服巻、神垣常任委員が講師を務め、12名が受講した。このクラスは遭難対策の中でも事故予防を主眼としたもので、雪崩地形(講義&演習:雪崩地形特に発生区の認識)、降雪と積雪(講義:降雪の種類と積雪内の温度勾配による球形化と再結晶化について)、安全行動(講義&演習:雪山での行動原則、雪崩地形内での行動様式)、雪崩埋没者の捜索救助(講義&屋外実習)、雪質観察(屋外実習)、雪崩地形の認識と行動(屋外実習)、危険度の理解(屋内演習:屋外での雪質観察結果とフィールドでの地形や雪崩発生状況から現状の危険性を評価)、雪崩埋没者の捜索救助(屋外演習:4人埋没(内1名はビーコンなし)をグループでの捜索演習)を映像や現地で見つちりと学んだ。

クラス2は15名で2班に分かれ、石田常任委員および一本松常任委員が主任講師を務めた。このクラスは積雪の断面観察、ジャンプテスト、弱層テスト(シャベルテスト、ハンドテスト)、埋没体験、埋没者の掘り出し、低体温症の処置、対応、ビーコンによる捜索、

プローブによる捜索、要救助者の梱包、搬送(平地の



ビーコンによる捜索訓練



み)、シェルター(スノーマウント)構築、一連の流れのシミュレーションを行った。

クラス3は14名で町田常任委員が主任講師を務め、オリエンテーションの後、屋内ロープワーク(ローダウンと引き上げシステム、流動分散)、低体温症についてのメカニズムと予防、対策、屋内のアバランチトレーニング(ビーコンの種類と特性、プロービング)、屋外ロープワーク(支点について)、雪崩予防復習(スタビリティテスト)、屋外のアバランチトレーニング(ビーコン捜索、プロービング、掘り出し)、総合シミュレーション、シェルターについて学んだ。

今回の講習も初心者が多かったが、ビーコンの普及を図る意味でも必携にしたが、クラス2で持参者が少なかった。特に登山者のビーコン所持率が低いので、雪崩に対する登山者の意識がまだ不十分であり、変えていく必要がある。

(遭難対策委員長 西内 博)



要救助者の搬出訓練

平成28年度ジュニア・普及情報交換会報告

平成28年度ジュニア・普及情報交換会が、2月11日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催された。昨年は、B u m b 東京スポーツ文化館にてこの情報交換会を実施したが、今年度は場所を変更したにも関わらず全国から総勢24名のご参加をいただいた。

最初に八木原罔明会長から挨拶を頂き、ジュニア・普及委員会は「公益」事業の中でも重要な安全登山の普及と青少年の育成を担っている。今年度、各地で展開された活動を学ぶとともに、有意義な意見交換をしていただきたいと述べた。また、スポーツクライミングが、東京オリンピック2020から参加種目になったことから、これから益々の普及・育成に力を注いでいかなければならないと力強い言葉を頂いた。

また、懇親会の席では、「情報交換会の開催時間をもう少し長くし、質疑応答の時間を確保することができないか」という声や、「関係者だけではなく一般の方々にもこの会の内容を知って頂きたい」という要望を聞くことができ関係者一同嬉しく思い来年度に考えたいと思った。

I 長野県山岳協会・全国高体連登山専門部

副部長 大西浩氏

「高校山岳部での安全対策——長野県の場合」

II 愛知県山岳連盟会長 安藤武典氏

「親子ふれあい山遊び」

III 東京学芸大学名誉教授、東海大学大学院客員教授、子供環境学会会長 小澤紀美子氏

「これからの子供達の野外活動」

IV 日本山岳遺産基金 久保田賢次氏

「日本山岳遺産基金の活動」について



八木原罔明会長挨拶

V 日本山岳協会常務理事・登山部長 西内博氏

「日本山岳協会の登山者教育について」

報告会後の懇親会には23名のご出席をいただき、各岳連(協会)で実践されている青少年育成事業の話題で大いに盛り上がった。来年度は、情報交換会の会議室を40名から80名の場所へ移し、より多くの参加者への呼びかけを実行し広く一般者の方々も参加できるようにしたらどうかという意見も頂いた。今回の参加者の方々からとても内容の濃い交換会だったと伺い来年度の交換会につなげていく。

今年も20数団体の都道府県で、「少年少女登山教室」をはじめとする多くのスポーツクライミングや自然体験活動が各岳連(協会)で開催されたが、ゆくゆくは47都道府県が実施することを切望する。また、高体連との関連の課題にもある様にクリアして行く必要がある。(記 中瀬和徳)



小澤紀美子講師



安藤武典講師

第101回 Mountain World

シュテック、再びエヴェレストへ

池田常道

今春のエヴェレスト(8848m)は空前の賑わいになりそうだ。ただでさえ人気を集める春だが、今季は2014年の雪崩事故、15年の大地震と2年続けてキャンセルとなって延長された登山許可を無駄にしたいくないクライアントの殺到が見込まれるからだ。そんななか、13年にローツェ・フェースでルート工作中的のシェルパといさかいを起こしてリンチに遭い(13年5月号の本欄参照)、断念を余儀なくされたウエリ・シュテック(40、スイス)が、再度挑戦することになった。

ウェスタン・クウム～西稜肩～ホーンバイン・クーロワール～エヴェレスト～サウス・コル～ローツェの無酸素縦走である。クウムから1日でホーンバイン・クーロワールを登ってサウス・コルで1泊、翌日ローツェに登るという計画だ。クウムからサウス・コルの区間は1963年アメリカ隊以来のエヴェレスト横断、サウス・コルからローツェは2010年にデニス・ウルブコが単独で登ったカザフ・ルートの第2登となる。

シュテックが今回パートナーに選んだのは24歳のシェルパ、テンジで、ふたりは12年にエヴェレスト無酸素登頂を共にしている。ロールワーリン出身のテンジは、ガイドビジネスよりも自己のクライミングに重点を置く新世代シェルパの筆頭格として期待される存在。なお、ふたりはローツェ(8516m)登頂後、調子が良ければヌプツェ(7855m)まで足を伸ばすことももくろんでいる。もし成功すれば、かつて山学同志会のご・小西政継氏が想定した「エヴェレスト馬蹄形縦走」が完成することになる。

サウス・コルへの下りでは公募隊で混雑する南東稜を通ることになるので、再びいさかいが起きるのではないかという懸念も残るが、シュテックは、「固定ロープが渋滞していたらその脇を通り抜ければいい」と、意に介していない。13年の事件直後は「自分を殺そうとまでした」シェルパたちに失望し、ネパールへの興味を失ったシュテックだが、その秋にアンナプルナ南壁の新ルートを単独登攀した(13年11月号本欄参照)ことでわだかまりが解け、ヒマラヤに対するモチベーションを取り戻したようだ。

*

新記録を狙うのはシュテックだけではない。スペインのウルトラ・ランナー、キリアン・ジョルネは北面からスピード登頂を目指している。昨年秋に悪天候と積雪状態の悪さで断念したジョルネは、ことし秋を申請したが中国当局が受け入れず、この春に再挑戦することにした。目標は標高4970mのロンブクBCから頂上までの標高差3880mを25時間から30時間で踏破しようというもの。これまでのスピード登頂はすべて標高6500mのABCを起点として行われてきたから、新たな挑戦となることは疑いない。

このほか、オーストリアのアンディ・ホルツァー(50)は、全盲の登山者としての第2登を狙い、イギリスのイアン・トゥートヒルは、ガン患者として初めての登頂を目指す。また、公募隊リーダーとしてこれまでに6回登頂しているアメリカのエイドリアン・ボーリンガーは、昨年秋に成らなかった無酸素登頂を目指す。これまでの6回はすべて酸素を使っていた彼は、無酸素登頂を締めくくりに選んだ模様だ。

*

ネパール側とチベット側、どちらが得かという問題はしばしば論議されてきたが、中国チベット登山協会(CTMA)が登山料の32%の値上げに踏み切ったことにより変化が生じそうだ。従来はチベット側が安さでリードしていたが、昨年までに同額の1万1000ドルとなり、今季からはさらにチベット側が1万4500ドル、対してネパール側は据え置きの1万1000ドルとなって割安感が目立つようになった。また、チベット側では秋の登山を禁止するなど規制が強まっていることも気になる。



シュテックとテンジがもくろむエヴェレストローツェ縦走。あわよくばヌプツェ(右)まで狙うというが

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

高知県 手箱山(1806.2m) 雪光山(926m)

高知県の地形は幾つかの構造線によって地層や地形が東西に走っている。そのことで川も東西に流れている部分が多い。脊梁山脈を形作る部分は日本でも最も古い地層でできていて、その南側は秩父帯、四万十帯と新しい地層の地形となっている。年間降水量は3660mmと多く浸食が進み谷の深い複雑な地形になっている。

手箱山は県境に近い県内にある山として一番高い山で、いの町(旧本川村)の山で吉野川の最奥の源流地域にある。この地域には越裏門や寺川集落があり古くから平家伝説や石鎚山信仰、伊予西条への峠越えのルートになっていた。山名については定かではないが古文書によると手箱越えと大森川へ落ちた地形が手箱の箱形に見えるところから付けられたと言われている。東方の長沢ダム付近からは本川富士のようにも見える。

登山ルートは、愛媛県の土小屋登山口から丸滝小屋経由でのルートが最も一般的で多くの人々に利用されている。高知県側からは、仁淀川町の安居溪谷から手箱越えのルート、いの町の石鎚公園線の大瀧ノ瀧展望所の登山口から氷室番所跡経由のコース、その上流の名野川登山口からのコース、いの町大森川の殿小舎経由のコースがある。手箱山周辺及びルート中には5月のアケボノツツジ、ゴヨウツツジ、ミツバツツジがみられる。また、8月初旬のキレンゲショウマも多くの登山者を魅了する。牧野博士によって秀峰手箱の名を冠したテバコマンテマ、テバコモミジガサ、テバコワラビもこの山を印象づける草花である。

手箱山は御留山(藩有林)で本川郷寺川村に派遣された役人が1752年に「寺川郷談」に記録した手箱山氷室伝説の調査が昭和41年、昭和48年の発掘調査等で



手箱山

氷室番所跡及び氷室跡と思われる岩場が6ヶ所報告されている。また、手箱山の氷室から雪(氷)を高知城下へ運ぶ道についても氷室や氷室神社の位置との関係でいろいろ議論されている。昭和63年氷室再現と氷室まつりによる村おこしが協議され、平成3年2月手箱山中腹1370m付近に氷室が再現された。7月19日氷室開きで氷は約1.7kgあり、氷はその日安居溪谷の氷室天神社に泊して、20日高知県庁まで56kmの6市町村を60人のリレーで届けられた。以後2月第1日曜日を氷室氷詰め、7月第2日曜日を氷室開きとして氷室まつりを越裏門で開催している。今年で第27回氷室まつりになる。高知県山岳連盟も前夜祭から氷室まつりの運営に協力している。これからも平家伝説や寺川郷談、本川神楽と続く生活文化と共に歩み続けたい。

雪光山(国土地理院国見山)は高知市の北西の方向に冬冠雪した山から人々に親しまれてこの名で呼ばれている。また、高知市の中心部を二級河川鏡川が流れているが、この鏡川の西の源流域になっている。登山ルートは県道6号を鏡川に沿って北上して鏡吉原から手水経由でのコースが一般的である。手水には駐車場がある。他に柿ノ又コースもある。標高926mの頂上から南に土佐湾、北に四国山脈が一望でき素晴らしい眺望である。春一番にアケボノツツジが咲き、ミツバツツジと山は満開になる。鏡川の水源地涵養の植樹活動も行われている。頂上の石積みの上に右に妙見菩薩、中央に国見権現、左に大黒天が祭られている。明治から大正時代には祭りに露店も出て、奉納相撲もあったようである。現在は頂上で3月3日と11月10日に例祭が行われている。1月3日には新春雪光山健康登山を市民参加で開催して12回目になる。この一年の平和と健康を祈念する登山になります。これからも市民の森として愛され、健康増進に繋がる事を期待する。

(高知県山岳連盟副会長 麻田正博)



再現された氷室

ネパール大地震第2次救援(復興)

マネ村モデルハウス完成 水の森は死なず

(2015年7月13日～2016年12月22日)

2015年4月25日、正午少し前。ラムジュンヒマール(6,986m)の麓付近から、M7.8の地震が起きた。ゴルカ郡、シンドウパルチョーク郡、そして植林地ヌアコット郡の被害が甚大だった。

NGOカトマンドウの救援活動はすぐ始まった。954万円余りの食糧、仮設用のトタン板などが被災した7カ村4,400人の村人に渡された。既に森が出来ていたの、とりあえずの食糧としての果実(パパイヤ、マンゴー、バナナ等)はすぐ近くにあった。一番大事な水も、森に作った貯水タンクの中に溢れていた。54万本の森は、土をしっかりと掴まえ、大規模な土砂崩れもなかった。そして復興への工事が始まっていた。

*

2015年10月、タイ航空機は誘導塔すれすれにカトマンズ空港へ急降下した。窓から見えるレンガの家々がまだ壊れたままだ。機は衝撃なく着地したので、乗客はみな拍手した。まず荷物の確保である。いつの間にか、隣のインド便の方へ荷物を持って行かれたことがあった。

小谷Dr、宮野さん、私、3人の荷を確認して空港の外を目指す。ドアから出ると、途端に大勢の客引きやホテルの出迎えの声、車の警笛、人混みが出す様々な臭いに囲まれた。旅行会社の髭面の強面の男が、無理をしたように笑う。荷物はみな、彼の部下たちが車に運び入れた。ホテルに落ち着く間もなく両替のために外へ出る。乾季にしては曇った空だ。

タクシーを掴まえ「ターメルまでいくら?」「1000ルピーです」「まさか、今、そこから来たばかりだよ。300で」「お客さん、じゃー800で」「いや、400」「では、500」「フンチャ(いいよ)」こういう風に値段が決まる。来るたびに物価が上がっていた。

国際会議場を左に曲がる。政庁の前を左に、それからラトナ公園に沿って走る。大きな箆笥を1人で背負う人。談笑する女学生たち。道に座り手を出して喜捨を請う両足のない物乞い。足元を気にする背広の公務員。道端に店を広げたサリー売り。靴屋。時計屋。立ち通しのマンゴー売り。スイカ売り。人を避けようとするタクシー。客引きのリキシャ。怒鳴るような極左バイディア派の宣伝カー。歩道も通りも眩暈がするほど人びとで溢れかえっている。

繁華街ターメルの入り口に両替屋がある。うっかり通り過ぎてしまいそうな小さな店だ。表に各国の通貨レートが書き出されている。1ドル=102.25ルピー。10ルピー=8.45円。つまり円安である。NGOは円高ほど楽だ。今は最悪なのだ。しかし、復興にはお金が要る。

10月30日、カウレ村までトラックで上って来た。3時間近いので尻が痛い。25年を経て大きくなった木々や森の中を歩いて来たので、痛いのも吹っ飛び、気持ちが良い。大地震が来ても、森と水は不死身だった。小谷Drと私のザック2つと、宮野さんの旅行鞆を下ろす。宮野さんはタマン語通訳のミナと笑って話している。ロク氏が指揮し、スタッフのナムラジ、デベンドラ、下から付いて来た手伝いの女性たち、シェルパ2人、護衛1人、出迎えたカウレの村びとが、米や野菜、釜や鍋、灯油のコンテナ等を寺院(チベット仏教の寺—グンバ)へ運ぶ。2階に三仏が鎮座され、下は修業僧の宿泊施設に作ってある。軽食を摂ってから森へ向かう。大人たちに混じって、バサンティ、ジョティが付いて来る。二人とも、4、5歳で水やりを手伝ってくれた。もう7年生か8年生である。毛沢東派と政府軍との内戦の10年間も、2人は苗に水をやり続けた。無論、村びとたちも。毛派軍は野球場4つほどの植林地の上部に機銃座をしつらえていた。下の小学校にも武装して籠っていた。私が行くと、スタッフのタマン族スマンが、両方へ話を付けに行った。スマンはゲリラの訓練を受けていた。私たちは腹をくくって苗に水をやり、高い木は枝打ちをした。そのバサンティの父は、出稼ぎ先のマレーシアで事故死した。遺体は空港に運ばれ、カウレ村は総出で迎えに行った。バスの運転手は、普



全壊したミンクマリさんの家(2015年4月20日)

段は後ろにぶら下がっている客からも金をむしる強欲な男なのに、率先して棺を置く空きを作った。金は生きていた奴からもらう、とただで運んだ。

10月31日。地震でも壊れなかったグンバ(チベット仏教の寺)で、夜、会議が始まる。皆、早めの夕食を済ませ、集まってくれた。カウレ村は地盤が強く、下の村々より被害は少なかった。しかしラマ僧のブッディやマンの家は壊れた。ブッディのは全壊、マンのは半壊である。フルマヤのグループ、マヤのグループは、それぞれ半分の家が住めなくなっていた。まずモデルハウス(MH)を作らねばならない。MHを手本に復興して欲しい。マネ村のMHは、まだ基礎工事の段階である。見慣れない人たちがいる。キプサン村からの陳情だった。グンバ(チベット仏教の寺)が全壊したから再建して欲しいと言う。とても金が足りない。首都のチベット仏教の団体のマネージャーのカルマさんに相談しようと思う。もう一人の青年がいた。やはりグンバを作って欲しい、と。バルチンの村?それって何処?

11月1日。カウレ村の植林地で、今日は涸沢の辺りから水やりを開始する、水は上の貯水タンクからパイプで引いて来る。水がめ、牛乳入れ、バケツ、ジョウロ、その他なんでも水の入りそうな物がずらっと並ぶ。水が勢いよく出るパイプの先を握ったロク氏が、水配り係りになっている。夜は寒くて寝袋へ入ったが、昼は春のような暖かさだ。村人40人以上が急斜面を上下して、苗に水を掛けている。こんな高度なのに(1,650m)、ウルシ科のマンゴー3本とマメ科のコイラロ2本を発見する。夜、タマン族の正装した若い女性が集まって来る。高価な反物は、チベットに近いマナン郡から売りに来るらしい。踊り子は8人。男たちがどこからか、ラジオ、拡声器を運んで来た。音楽はスマホから繋いでいる。ネパールの山奥でも、時代はすぐに追いつく。「セムキ・メンドウ(心の花)」の踊りは、どうも相想歌のようだ。終わって心付けを1人ひとりに渡す。翌朝、お別れに来た踊り子さんたちが、皆、6年生、7年生の学生服姿であった。昨夜踊ったときの艶やかな服装や化粧と、今朝の学生服姿の落差に、後期高齢者の私は愕然。

11月2日。午前中はカウレの植林地で植えた苗へ水やり。乾季の水やりは、森作りに必須の条件だ。バサソティはいつものバサソティに戻っている。昨夜、積極的に艶っぽく踊っていたのは誰?昼前、作業を続けている村びとを残し、トラックで下に行く。道々、両側に20年以上経ったカイユ、ネパール三葉松、チラウネなどの木々が展開する。1,300m付近で車が止まり、降り

た私たちは少し斜上した。コンクリート製の新しい貯水タンクがあった。パイプが下へと伸びている。すぐ地下へ潜った。確認して、又トラックに戻る。マネ村の茶店兼雑貨屋に着く。奥の方が倒壊していた。それでもサウニ(女主人)は、コーラはどうですか、と商売熱心だ。電気が途絶えて冷蔵庫も使えない。ぬるい飲み物をスタッフたちが飲む。一息入れて、Eグループの森を目指す。通い慣れた道の両側に、壊れた家が並ぶ。あと10分ほどの距離まで来ると、インド菩提樹が地震前と変わらず陽射しをさえぎっていた。そのすぐ横から、モクレン科のチャンプが菩提樹の茂った枝を突き破って空高く聳えていた。マネ村の男の子が20年以上前に苗を植えた。誰もが、菩提樹の下に植えるなんて、と子供の知恵を笑ったものだが、今こうして見れば、彼の直感の方が正しかった。

Eグループの森は、地震にもめげず、勢い良く立ち上がって来ていた。あまりの急斜面に、近くの村の青年が草刈りに来て転落死した場所だ。マネ村グループAもBもC、D、F、Hとみな成功し、唯一失敗したのがEだった。全村の植林を指揮した亡きアイマンシン老は、変形性膝関節症の足を引きずって、グループの男女を叱咤した。彼は、私がやった薬でまず胃の痛みを止め、次に濁酒をしこたま飲んで膝の痛みを止めた。私は貯水タンクを作ったり、全ての植林地で最高のコンクリート製の石垣を築いたりした。努力に反比例して、ここだけは失敗が続いた。そこが3年前から少しずつ変わった。カバノキ科のネパール・ハンノキが残っているのに気づく。それから毎年、ハンノキの種を集め、その苗ばかりを作って植えた。今、ハンノキと少しのモクレン科のチャンプが、しっかりと土を掴み、雨季に斜面を襲う濁流にも耐えている。枝打ちをしなければならぬ太い木もある。

Eの森から、マネ村の隣のポカリ村にある小学校へ行く。生徒たちは、竹で編んだむしろを壁にした仮設



完成したモデルハウスに招待された村人
(2016年12月22日)

で、授業を受けていたが、眼は生き生きと女先生の方を見ていた。校長と教頭が、壁のひび割れた教員室にいそいそと出迎えてくれた。宮野さんの肩に白い長い絹布がかけられた。カタと言う聖なる布だ。気づくと生徒たちの水飲み場が出来ており、蛇口から水が滴っている。さっき見た貯水タンクから地下を引いて来た水がここへ達したのだ。ポカリ村は20年前私たちが水道を作ったが、学校だけ高台にあって水が届かなかった。長年の懸案は、今、解決したのだ。「こんな仕掛けだったの」と寄付金を出した宮野さんはびっくりした。皆でマサラティーを頂く。

ついにミンクマリさんの仮設に着く。地震直後日本から電話すると、「モン(タマン語のお婆ちゃん)は死にました」と知らされた。誤報だった。石と土で出来た家が地震で倒壊し、彼女は瓦礫の下で8時間を生き抜いた。「絶対壊れない家を作って下さい」ミンクマリは私に頼んだ。「じゃあ、コンクリートの家でも良いの」「はい」。倒壊した家は片付けられ、あちこちに大きな穴が掘ってある。覗くと大きな石が突き固められている。まだセメントは流し込んでいない。鉄骨を組み立て、長い柱状にしたものが10本ほど出来上がっていた。工事は基礎をコンクリートで固める一歩手前まで進んでいた。だが、ネパール国内で80戸が全壊した現状では、セメントもトラックも、砂利も砂も鉄筋も、何もかも足りない。特に建築技術者は引っ張りだこ。高給の上にボーナスも積まないと来てくれない。ここまで来ただけでも立派である。功績は総指揮のロク・タパ氏にある。

11月3日。トゥプチェに降りて来た。「母の橋は今日も人びとが往来している。地震の前、大水が出たとき、トリスリ河の左岸が広く流された。母の橋の付近の堤防が崩れかけていた。岸の石積み直す必要があった。小谷Drが資金を出してくれた。もし護岸工事をしていなかったら、釣り橋の基部が倒壊し、橋がトリスリ河へ落ちたかもしれない。小谷Drと工事を指揮したロク氏のおかげだ。そして地震後も、一時救援、復興の資金も、大勢の方々に支えられている。

11月7日、安倍、小谷Dr、宮野の3人帰国。

2016年1月、モデルハウス(MH)の基礎にセメントを流し、養生する。セメントを発注。砂、砂利を運びこむ。鉄筋が届く。組み合わせ。銀行経由で資金を送金する。

2月、東側の鉄柱を6組立てる。砂、砂利、トラック4台分。セメント、150袋が届く。西側も鉄柱を立て、固定する。

3月、西側、南側、北側にも、鉄柱を固定。木枠を作製。

セメント200袋届く。

4月、鉄筋は全て届く。壁の枠組み。

5月、壁の枠組み終了。セメントを流す。養生中。

6月、セメント養生中。雨季に入り、工事を一旦中止。

7月、マネ村Eグループの植樹。カウレ村植林地で植樹開始。

8月、雨で流失した苗の植え直し。シンドウパルチョーク郡ラムチェ村で、簡易型モデルハウスの工事が始まる。

9月、マネ村の工事の不足資金を銀行経由で送る。

10月、ロク氏、突然、中国東方航空で日本へ来る。長女デビィの夫峰村氏のご逝去の弔問のため。告別式に出席。

11月、ロク氏と関係者へお礼の訪問。MHの今後の工事の打ち合わせ。ロク氏と共に朝日新聞の取材を受ける。ロク氏の5女セーナさんのいる金沢へ送る。

12月。ロク氏がネパールへ帰国。不足した資金を銀行経由で送金。マネ村のMHの工事は一気に進む。屋上部分の工事再開。養生。22日、完成し祝賀会に村人を招待。

〈費用内訳〉

一般寄付	1,622,000円
NGOカトマンドゥ	3,327,000円
合計	4,949,000円

●支援の振込先

「ゆうちょ銀行：00510－5－47965」

みどりの基金・ネパール

●問い合わせ先

NGOカトマンドゥ：0263－84－0078

(NGOカトマンドゥ代表 安倍泰夫)

憧れのロッジに3連泊、ロッキーの絶景に出会う旅

**アシニボイン・ロッジと
レイクルイズ 9日間**

発着地 東京 旅行代金 ¥578,000～¥648,000

出発日 6/22(木)・7/6(木)・7/13(木)・7/20(木)・8/10(木)

※燃油サーチャージ(2017年3月20日現在)は不要となっておりますが、今後変更になる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコJ保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

平成28年度第4回理事会報告

1. 日時 平成29年3月4日(土)10時30分～15時

2. 場所 渋谷フォーラムエイト773会議室
(東京・渋谷)

3. 出席者 理事：八木原罔明、尾形好雄、高橋時夫、
亀山健太郎、小野寺齊、西内博、仙石富英、瀧本健、
水島彰治、京才昭、中瀬和徳、相良忠麿、北村憲彦、
増山茂、小野倫夫、齊藤喜代志、小宮山稔、牧野治生、
亀井正明、伊藤克己、大西一俊、下田泰義各理事、以
上22名

監事：内藤順造、岡本忠良、中畠正喜各監事、以上3名
(欠席者) 國松嘉仲、森下健七郎、峯本典寛、以上3名

4. 開 会

八木原会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項に定
めるところにより、八木原会長が議長となり、定款第
33条第1項に定める定足数の充足を確認して本会議の
開会を宣言した。次いで、定款第34条第2項に基づき
議事録署名人を八木原会長、内藤・岡本・中畠各監事
とし、議案の審議に入った。

5. 議 事

第1号議案 平成28年度補正予算について

小野寺常務理事が議案説明を行い、相良理事が具体
的な数字を補足した。

補正予算の時期が遅い。ソフトウェアの資産計上。
交付金と助成金についての質疑があった。

※第1号議案は、全員一致で承認された。

第2号議案 平成29年度事業計画について

小野寺常務理事が資料に基づいて概略内容を提案し
た。事業内容について一部訂正追加があった。日程
に変更はない。

事業方針案の文言、五輪推進室の業務、ハイキング
リーダーなどに質疑があった。

※第2号議案は、全員一致で承認された。

第3号議案 平成29年度収支予算について

小野寺常務理事が資料に基づいて概略内容を提案し
た。次に相良理事が具体的な数字について、説明を
行った。

予算編成の手順、2020年以降の予算予測、選手の助
成金、安定財源の獲得方策、募金目標額などに質疑
があった。

※第3号議案については、全員一致で承認された。

第4号議案 平成29年度山岳共済会事業計画及び収 支予算について

尾形専務理事が資料に基づいて議案を説明した。

商品ラインナップの変更、トレラン保険、内閣府か

らの指摘事項への対応などについて質疑があった。

※第4号議案については、全員一致で承認された。

第5号議案 会長、副会長候補者の推薦について

会長・副会長推薦委員会から推薦された、八木原罔
明会長、尾形好雄、亀山健太郎、高橋時夫、伊藤克己
各副会長候補者が、全員一致で承認された。

第6号議案 新名称のロゴについて

小野寺常務理事が資料に基づいて提案した。

※第6号議案は、提案通り全員一致で承認された。

第7号議案 (公社)日本山岳協会の名称変更に関係規 程の整理に関する規程

小野寺常務理事が資料に基づいて提案した。

※第7号議案は、一部文言の訂正後、全員一致で承
認された。

第8号議案 参与(個人賛助会員)の推薦について

小野寺常務理事が資料に基づいて、北海道山岳連盟
顧問の土屋勲、太田紘文両氏の推薦が提案され、異
議なく全員一致で承認された。

第9号議案 I F S C世界選手権招致について

小野寺常務理事が資料に基づいて提案した。

予算、競技会場、開催時期について質疑があった。

※第9号議案は、提案通り全員一致で承認された。

6. 報 告

報告第1号 平成28年度事業経過報告について

小野寺常務理事が資料に基づいて報告した。

報告第2号 平成28年度収支見通しについて

相良理事が口頭で、補正予算表を参照しながら報告
した。

報告第3号 平成28年度山岳共済会事業及び収支見
通しについて

尾形専務理事が資料に基づいて報告した。

7. その他

(1)業務執行理事・(12月～3月)職務執行報告

出席した業務執行理事が、資料を基に各々報告を
行った。

(2)平成28年度全国理事長会議報告

小野寺常務理事が資料に基づいて報告した。

(3)I F S C役員改選について

小日向選手強化委員長をI F S C副会長に推薦する
ことが報告された。改選は3月11日のI F S C総会。

(4)国体開催要項の変更について

第74回茨城国体から山岳競技がスポーツライミン
グ競技に変更される予定。

8. 閉 会

以上をもって全ての議事の審議を終了した。

15時閉会。

平成29年度主な事業計画

1. 会議等

- ・総会 5/28(日)
- ・理事会 5/13(土)、5/28(日)、11/12(日)、
30年3/4(日)
- ・全国理事長会議 30年2/18(日)
- ・全国参与会 7/6(金) 北海道
- ・新春懇談会 30年1/13(土) アルカディア市ヶ谷

2. 専門委員会総会

- ・スポーツクライミング部委員総会
4/2(日) 岸記念体育会館
- ・指導委員総会 6/3(土)～4(日) 東京海員会館
- ・国際委員総会 7/22(土)～23(日)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・遭難対策委員総会 6/24(土)～25(日)
- ・自然保護委員総会
9/9(土)～10(日) 石川県白山市

3. 青少年育成事業

- ・第61回全国高等学校登山大会
7/30(日)～8/3(木) 山形県、月山・蔵王
- ・ジュニア普及情報交換会 30年2/17(土)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2017
8/17(木)～20(日)
国立立山青少年自然の家、立山周辺
- ・みんな集まれ!なすかし雪遊び隊2018
期日未定、国立那須甲子青少年自然の家

4. 安全登山の啓発事業

- ・中高年安全登山指導者講習会
①東部地区(静岡・竜爪山) 9/22(金)～24(日)
②西部地区(山口・陶ヶ岳) 10/7(土)～9(月)
- ・山岳レスキュー講習会
①西部地区(富山県・国立登山研修所)
9/8(金)～10(日)
②東部地区(群馬県・土合山の家)
1/26(金)～28(日)
- ・第56回全日本登山大会 7/6(木)～8(土)
北海道・羊蹄山・ニセコ山系周辺
- ・第2回「山の日」記念全国大会
8/11(金・祝) 栃木県那須町
- ・「山の日」祝日記念「ふるさとの山を登ろう」
各都道府県山岳連盟(協会)が主管して実施
- ・海外登山懇談会 11/16(木)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・平成29年度全国山岳遭難対策協議会 7/7(金)

国立オリンピック記念青少年総合センター

5. 登山指導者育成事業

- ・氷雪技術研修会 4/29(土)～30(日) 富士山
- ・登攀技術研修会 10/28(土)～29(日)
福島県山岳連盟
- ・氷雪技術研修会 2/17(土)～18(日) 大山

6. 競技会運営事業

- ・日本ユース選手権リード競技大会
4/15(土)～16(日) 印西市松山下総合運動公園
- ・I F S CクライミングWCボルダリング八王子大会
5/6(土)～7(日) エスフォルテアリーナ八王子
- ・ボルダリング・ユース日本選手権鳥取大会
5/20(土)～21(日) 倉吉市体育文化会館
- ・第31回リード・ジャパンカップ
6/10(土)～11(日) 愛媛・西条市
- ・第20回JOCジュニアオリンピックカップ
8/12(土)～14(月) 富山県南砺市桜が池CC
- ・全国ルートセッター研修会
①8/15(火)～17(木) 南砺市桜が池CC
②12/25(月)～27(水) 加須市民体育館
- ・第72回愛媛国体山岳競技大会
9/30(土)～10/3(火) 愛媛県西条市
- ・第8回全国高等学校選抜クライミング選手権大会
12/23(土)～24(日) 加須市市民体育館
- ・第13回ボルダリング・ジャパンカップ
2/3(土)～4(日) 駒沢オリンピック記念運動場
- ・リード日本選手権加須大会
3/3(土)～4(日) 加須市民体育館
- ・リード・ユース日本選手権印西大会
3/24(土)～25(日) 印西市松山下公園総合体育館

7. 競技力向上事業

- ・ワールドカップ派遣 4月～11月 世界各地
- ・ワールドゲームズ大会
7/20(木)～30(日) ポーランド・ヴロツワフ
- ・I F S C世界ユース選手権
8/30(水)～31(木) インスブルック
- ・アジア選手権 9/11(月)～15(金)
イラン・テヘラン

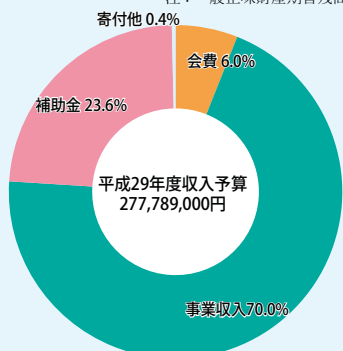
8. 国際交流事業

- ・BMC International Climbers Meetへの派遣
- ・国際山岳連盟(U I A A)総会 期日未定、イラン
- ・第11回山岳スキー日本選手権大会
4/1(土)～2(日) 長野県・柵池高原

科目	公益会計										法人会計	合計
	普及	遭難対策	指導	競技会運営	競技力向上	国際交流	自然保護	医科学	公益共通			
I 一般正味財産増減の部												
1. 経常増減の部												
(1) 経常収益												
基本財産運用利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用利益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,768,000	16,768,000
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,800,000	2,800,000
加盟分担金受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,000,000	10,000,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,968,000	3,968,000
事業収益	17,585,000	5,870,000	3,345,000	74,380,000	57,100,000	3,600,000	2,868,000	2,224,000	7,930,000	19,442,000	194,344,000	
共済委託事業収入	13,620,000	4,770,000	1,716,000	2,530,000	100,000	2,700,000	1,768,000	2,224,000	4,930,000	5,642,000	40,000,000	
登録料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12,800,000	12,800,000
参加者負担金	3,465,000	1,100,000	1,629,000	13,050,000	2,000,000	880,000	1,100,000	0	0	0	23,224,000	
協賛金	500,000	0	0	51,900,000	55,000,000	0	0	0	0	0	1,000,000	108,400,000
広告料	0	0	0	0	0	0	0	0	3,000,000	0	0	3,000,000
競技会収入	0	0	0	6,900,000	0	0	0	0	0	0	0	6,900,000
その他事業収益	0	0	0	0	0	20,000	0	0	0	0	0	20,000
受取補助金等	2,900,000	1,920,000	1,427,000	23,020,000	29,000,000	0	0	7,410,000	0	0	65,677,000	
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,900,000
日本オリンピック委員会助成金	0	0	0	200,000	28,000,000	0	0	0	0	0	0	28,200,000
国民体育大会補助金	0	0	0	7,020,000	0	0	0	0	0	0	0	7,020,000
日本体育協会助成金	0	0	1,427,000	0	0	0	0	0	0	0	0	1,427,000
スポーツ振興くじ助成金	0	1,920,000	0	0	0	0	0	7,410,000	0	0	0	9,330,000
スポーツ振興基金助成金	0	0	0	14,000,000	0	0	0	0	0	0	0	14,000,000
ワールドゲームズ協会補助金	0	0	0	0	1,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000
受取負担金等	0	0	0	1,800,000	0	0	0	0	0	0	0	1,800,000
受取寄付金等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	1,000,000
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	20,485,000	7,790,000	4,772,000	97,400,000	86,100,000	3,600,000	2,868,000	9,634,000	7,930,000	37,210,000	277,789,000	
(2) 経常費用												
事業費	20,485,000	7,790,000	4,772,000	97,400,000	86,100,000	3,600,000	2,868,000	9,634,000	6,930,000	0	239,579,000	
給料手当	1,570,000	1,230,000	0	800,000	0	600,000	220,000	160,000	160,000	0	4,740,000	
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	284,000	70,000	140,000	1,010,000	720,000	130,000	220,000	40,000	30,000	0	2,644,000	
旅費交通費	5,300,000	3,700,000	2,573,000	12,486,000	76,180,000	1,867,500	900,000	598,000	0	0	103,604,500	
通信運搬費	65,000	0	0	570,000	0	33,000	20,000	0	1,350,000	0	2,038,000	
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	65,000	700,000	0	2,342,000	200,000	45,000	800,000	500,000	0	0	4,652,000	
印刷製本費	335,000	210,000	1,072,000	6,180,000	0	72,000	517,000	0	5,300,000	0	13,686,000	
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
貸借・リース料	170,000	160,000	50,000	7,815,000	0	0	0	0	0	0	0	8,225,000
保険料	75,000	40,000	47,000	802,000	0	0	51,000	0	30,000	0	1,015,000	
諸謝金	1,990,000	1,330,000	700,000	11,840,000	2,000,000	110,000	30,000	70,000	0	0	18,070,000	
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大会施設費用	0	0	40,000	31,780,000	0	20,000	30,000	0	0	0	31,870,000	
支払負担金及び還付金	0	200,000	0	5,862,000	0	0	0	0	0	0	6,062,000	
支払助成金及び事業交付金	0	0	0	1,350,000	0	200,000	0	0	0	0	1,550,000	
委託費	7,900,000	0	150,000	6,440,000	0	250,000	80,000	8,266,000	0	0	23,086,000	
参加登録料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
現地サポート費用	0	0	0	1,690,000	7,000,000	225,000	0	0	0	0	8,915,000	
大会記念品費	1,010,000	0	0	1,005,000	0	10,000	0	0	0	0	2,025,000	
大会賞金	0	0	0	2,909,000	0	0	0	0	0	0	2,909,000	
報奨・奨励金	1,700,000	0	0	750,000	0	0	0	0	0	0	2,450,000	
雑費	21,000	150,000	0	1,769,000	0	37,500	0	0	60,000	0	2,037,500	
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	37,210,000	38,210,000	
役員報酬	0	0	0	0	0	0	0	0	200,000	0	200,000	
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	6,100,000	0	6,100,000	
通勤費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,200,000	0	1,200,000	
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	1,775,000	0	1,775,000	
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,200,000	0	1,200,000	
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	550,000	0	550,000	
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	9,500,000	0	9,500,000	
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	700,000	0	700,000	
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	500,000	0	500,000	
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	2,300,000	0	2,300,000	
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	50,000	
貸借・リース料	0	0	0	0	0	0	0	0	3,000,000	0	3,000,000	
支払会費	0	0	0	0	0	0	0	0	2,300,000	0	2,300,000	
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	300,000	0	300,000	
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500,000	0	1,500,000	
支払負担金及び還付金	0	0	0	0	0	0	0	0	4,835,000	0	4,835,000	
交際費	0	0	0	0	0	0	0	0	500,000	0	500,000	
支払寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
支払報酬	0	0	0	0	0	0	0	0	300,000	0	300,000	
手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	400,000	0	400,000	
IT関連	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000	
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常費用計	20,485,000	7,790,000	4,772,000	97,400,000	86,100,000	3,600,000	2,868,000	9,634,000	7,930,000	37,210,000	277,789,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2. 経常外増減の部												
(1) 経常外収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指定正味財産から振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	50,408,202	0	50,408,202	
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	50,408,202	0	50,408,202	
II 指定正味財産増減の部												
受取寄付金等	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000,000	0	1,000,000	
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	30,000,000	0	30,000,000	
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	31,000,000	0	31,000,000	
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	81,408,202	0	81,408,202	

注：一般正味財産期首残高及び指定正味財産期首残高はH28年度決算が未確定のため暫定的にH27年度決算残高をの数値を元にしている。

収入予算	会費	16,768
事業収入	194,344	
補助金	65,677	
寄附他	1,000	



法人名称の変更について（お知らせ）

謹啓

陽春の候、益々ご清栄の事とお慶び申し上げます。平素より格別なご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、弊協会は、平成29年4月1日をもって法人名称を「公益社団法人日本山岳協会（英文名：Japan Mountaineering Association, 略称：JMA）」から「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（英文名：Japan Mountaineering & Sport Climbing Association, 略称：JMSCA）」に改称致しました。

つきましては、これまで以上に登山とスポーツクライミングを統括する中央競技団体として、安全登山の啓発と登山文化の普及・振興及びスポーツクライミングの競技力向上と普及・振興に一層の努力をいたして参る所存ですので、今後とも従来とかわりませぬご支援とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

謹白

平成29年4月1日

公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
会長 八木原 圀明



平成28年度（29年3月）
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成29年2月23日(木)

連絡部会 18時～19時30分

常務理事会 19時30分～20時40分

場所 岸記念体育会館・4F特別会議室

出席者 八木原会長、高橋・亀山各副会長、小野寺、西内、森下、京オ、瀧本、仙石、水島、中瀬の各常務理事、相良財政、西原競技運営、澤田委員長、中畠監事

委任：尾形、國松の各副会長、増山、小日向、山本、松隈、角田の各委員長（22名中15名出席）

1. 議事

- 平成28年度2月常務理事会議事録の承認について（事前送付済）異議なく承認された。
- 全国理事長会議議事録の承認について異議なく承認された。
- 平成28年度補正予算について
日本ユース選手権リード競技大会の延期については、29年度予算に組み込み、今年度収入は前受け金とする。
理事会前までに常務理事に補正予算書を提示することで、承認。
- 平成29年度事業計画と予算について
事業計画について一部変更あり。
予算案の追加・変更に関しては、理事に文書添付で送付すること。
登山部関連の予算、海外登山奨励金、各岳連への助成事業等に質疑応答があり、提案通り、承認された。
- 平成29年度山岳共済会事業計画と予算について
提案通り承認
- JMSCAロゴについて

スペルミスを訂正し、日本語の略称は「日山協」とする。デザインは、一部変更した。商標登録をする。

以上、提案通り承認。

- I F S C 世界選手権大会2019、日本招致について
提案通り承認。
- アスレチックトレーナー推薦、体協へ2名まで（3名候補）
3名の候補者があり、実績を中心に考えて、1位を樋口拓哉氏（千葉）、2位片山旭氏（広島）となり、次点に杉山典之氏（奈良）となった。
- J O C 役員選出について
理事候補者の推薦は、候補者無しで承認。

2. 報告事項

- 平成28年度1月会計報告について
資料に基づいて報告を行った。
- 平成28年度事業経過報告について
資料に基づいて報告を行った。
- 平成28年度山岳共済会事業経過報告について
優良割引率に変更になり、保険料が若干上がった。
- 登山医学会講演について
八木原会長への講演依頼について報告があった。
- J O C 認定競技センター申込について
資料に基づいて報告があった。
- 全国理事長会議の位置づけの明文化について
- 国体山岳競技の名称変更について
74回茨城国体から、名称の変更が行われる予定。

3. 指導員・審判員 検定結果報告

- 2月6日指導員委員会で認定した指導者の専門科目合格者
- ア) アルパインクライミング
- 東京開催指導員 A C 指導員（検定日：12/10）

（東京）高田秀紀、橋本正則、川下純生、山下エリナ、宮川幸久、竹村博、松本敏、村上才子、穂田守、千石隆一、守永明子、富塚正守、坂上明子、野口千代子、松本光顕、（新潟）高波太一、以上16名

②大阪開催指導員 A C 指導員（検定日：1 / 8）

（兵庫）松原芳孝、（大阪）吉田英彰、徳田正彦、以上3名

③大阪開催上級指導員 A C 上級（検定日：1 / 8）

（大阪）吉田和男、以上1名

④北海道開催指導員 A C 指導員（検定日：11/27）

（北海道）山崎千種、東海林春樹、前田智、大須賀一馬、大瀧恵二、安藤秀彦、笠井文考、坂文明、安田美弥子、佐藤由香、鈴木健児、佐々木秀幸、平林茂實、大井聡、瀬川優、石川弘大、以上16名

⑤岐阜開催指導員 A C 指導員（検定日：12/18）

（岐阜）郷田秀二、小森和彦、以上2名

⑥福島開催 A C 指導員（検定日：1 / 22）

（福島）伊藤健一、大山直樹、西由紀江、渋谷恵美、竹本知也子、（茨城）渡邊一雄、以上6名

イ) スポーツクライミング

①山口地区日山協開催 S C 指導員（検定日：11/20）

（愛媛）青木亮二、（広島）延近昌彦、中野恵美、（鳥取）福田宗次郎、（山口）川原喜代美、山縣茜、岩本亮太、谷厚志、（島根）佐藤雄一郎、片山尚達、（岡山）野村康寿、的場章良、以上12名

②山口地区日山協開催 S C 上級指導員（検定日：11/20）

折笠浩人、以上1名

③富山開催指導員 S C 指導員（検定日：12/11）

（福井）辻谷清人（長野）阿南卓治、松山信、中嶋渉、及川真弓、岡和宣、羽山菜穂子、（石川）穴田和久、山田千秋、

恩田佳奈、吉村宏美、(愛知)清水正城、須澤智子、⑤(新潟)田中加織、(富山)中橋沙羅、加納範彦、以上16名

④兵庫開催指導員SC指導員(検定日:10/23)

(香川)三谷るり子、國方康史、鈴木琢真、西尾さとみ、吉田賢一、福家あかね、(和歌山)井上忠史、杉村紗恵子、大園敬秀、津村俊成、片山健太、(大阪)三根生俊二、山田航、石井寧、(京都)本郷真一、(奈良)抜井英嗣、(兵庫)高木亮祐、以上17名
以上、異議なく一括承認された。

4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)「日本山岳写真協会」後援名義使用について
- (2)「第43回大阪府岳連チャレンジ登山」後援名義使用について
- (3)「東北の高校生の富士登山2017」後援名義承認
以上、異議なく承認された。

5. 専門委員会動静

(1月18日～2月14日)

- (1)国際委員会 2月14日(火) 出席11名
ア)報告事項
・海外登山奨励金(後期)選考結果報告(選考委員会1/16)

- ・キルギス山岳会 Mountain Spirit 2017 公募開始
- ・国内WCM(1/21、22)荒船山に変更して開催 24名参加
- ・平成29年度事業計画・予算案の提出
- ・山岳スキー競技進捗状況
- ・海外登山懇談会日程 11/16(木)オリセン80人室(予約済み)
- ・IMFインド登山料2017年の値下げ
- イ)協議事項
- ・平成29年度国際委員総会兼第56回海外登山技術研究会 7月22日～23日オリセン80人部屋
- ・WCM参加者(アルパインクライマー)へのアンケートについて
- ・国内外に向けてのHP案について
- (2)競技部 競技運営委員会
2月11日(土) 出席11名、委任8名
ア)平成29年度競技部委員総会について(4月2日(日)10:30-16:00)
- イ)平成29年度国体委員会日程について
- ・毎月第3木曜日を基本とする
- ロ)報告事項
- ・ブロック別研修会開催準備状況
- ・国体後催催の準備状況について
- (3)遭対委員会 1月18日(木) 出席7名
ア)積雪期レスキュー講習会について
イ)ハイキングリーダー(夏山リーダー)進捗状況について

- ウ)日本山岳レスキュー協議会のSARへの統合について
- エ)AvSAR委員会への加入について
- オ)平成29年度事業について
- カ)平成29年度総会開催場所について
- ・6/24～25大阪・道場の周辺で開催
- キ)その他
- ・来年度常任委員について

6. その他の重要事項

- 2月6日～2月24日
- (1)山のグレーディング会議 2月6日(月) 於:長野県 西内登山部長
- (2)女性アスリート戦略的効果支援プログラム勉強会 2月7日(火) 於:味の素NTC 西谷善子選手強化委員
- (3)ジュニア・普及情報交換会 2月11日(土) 於:オリセン 八木原会長、西内常務理事、中瀬常務理事、仙石常務理事
- (4)審判セッター会議 2月11日(土) 於:フォーラムエイト 森下部長、山本競技技術委員長
- (5)平成28年度全国理事長会議 2月12日(日) 於:フォーラムエイト 八木原会長他
- (6)ボルダリング日本代表選手公開練習 2月14日(火) 於:B-pump 荻窪 森下競技部長、小日向強化委員長
- (7)中国登山協会表敬訪問 2月16日(木)～18日(土) 於:北京 神崎顧問、小日向委員長
- (8)氷雪技術研修会 2月18日(土)～19日(日) 於:大山 瀧本常務理事
- (9)IFSCアジアカウンスル総会 2月22日(水)～24日(金) 於:バンコック 小日向選手強化委員長
- (10)会長・副会長推薦委員会 2月23日(木) 於:スポーツマンクラブ 八木原会長、他推薦委員

寄贈図書

寄贈本	(株)山と溪谷社	ヤマケイ登山地図 北岳 甲斐駒 仙丈
雑誌	(株)山と溪谷社	「ROCK & SONW」075
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.838
	(株)ソル・メディア	「CLIMBERS」#003
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第440号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第597号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2017.4.5
	横浜山岳会	「山」1017号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康・体力づくり」No.467
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.57
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBCnews」第544号
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol.30
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.330
会報	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.984
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.3
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.183
	korean Alpino Federation	「大山聯」Vol. 219
	Corean Alpine Club	「山」Vol.250 2017.1-2
	(公財)日本体育協会	2017年3月13日号 体協フェアレニュース/体協スポーツニュース
	中国登山協会	「山野」2017.3 総223期
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.224
	(公社)日本山岳会	「山」No.862
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.688
	(一財)熊本国際観光コンベンション協会	「Welcome」2017 Spring

編集後記

3月27日栃木県那須町のスキー場付近で登山訓練中の高校生が雪崩に遭い生徒7人引率教師1人が亡くなるショッキングな事故が発生した。今後の調査で詳細は明らかになるでしょう。犠牲になられた方々には謹んで哀悼の意を表すとともに、山岳団体で再発防止のアピールが必要ではないかと思えます。(広報担当 水島彰治)

登山月報 第577号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成29年4月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

一般財団法人 日本トレイルランニング協会
 神奈川県事務局
 〒252-0184
 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

妙高赤倉マウンテンレース
 パーティカル5K & トレイルラン25K

NPO法人 北丹沢山岳センター
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
 TEL.042-687-4011 FAX 042-687-3980
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会
 ・道志村トレイルレース実行委員会
 ・八重山トレイルレース実行委員会
 ・東丹沢ヶ瀬トレイルレース実行委員会
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会
 大会々長 杉本憲昭

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすりめです。

購読割引 **送料無料** **限定品プレゼント**

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
8,160円 (+税) → **7,480円** (+税)
(税込8,812円) (税込8,078円)

1年間で680円
1冊分無料

年間購読特典

岳人オリジナル
コンパクトフォームパッド

年間購読を
お申し込みの
みなさまに
プレゼント!



使用サイズ
33×26×0.8cm



特集 鉄道で行く山

5月号
4/15発売

「岳人」2017年5月号

特集 鉄道で行く山

【好評連載】石川直樹「アジアの山に生きる」
／竹田津実「オホーツクの村物語」ほか

本体価格 680円 (+税)
★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

◎ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp>

◎お電話で (受付後に振込用紙をお送りします)
0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

◎全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp>

初めて、
という不安。

ここから始まる、
という希望。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよぐ。三井住友海上

www.ms-ins.com

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳協会 携帯サイト
(www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)